



蘇杭島周



雪の集序



近頃氏令羅老人と塊の地をまつく遊び
者少らるる戯とて、うなぬればより俳諧を
高しむる中、の甚きは、休むを、いひ、雪を、雪
燈の、あ、い、よ、道、の、鐵、燈、の、を、嘆、み、く、ま、り、
人、を、道、ま、よ、教、え、の、厚、か、り、し、よ、わ、り、ま、え、の、疾
く、く、る、ま、よ、し、し、く、く、慶、應、三、丙、寅、十、二、月
廿、七、日、幸、々、ら、る、雪、の、集、り、に、こ、こ、今、の、一、周、の

志は遠く、嗣子あるを望むの真の心を記して
 門人某部白雲達の人々補ひ賜へ言ある
 可の事あり、西遊史居士の靈いかに
 ありとありきと、此集を閲してとまよふと
 留まらざる

祖翁の人七世

日雨亭今我



各點譜正五點
 并陸印感賞加
 猶一點

雲江書



恥をきくもなり 腕のそくは
ゆきもみよき 二世はあ味雨
枯みりやうはさして竹もりつ
月はあまもよき 雪のゆき
川のはやもあはれ 解の年を味
影りく 籠すあみくや 妹の夕
之やあまき 物れくつやあまの玉
草畑にあまぬき ちきくくく 承
女はけくくく 葉はあまの 樽は食
供陰の古草 ちきくくやあまの丸
ちきくくあ ぬきくくあ 然れは
屋きくくく 子のちきくくやあまの丸
船まのあまきくくくくく ちきくくく

高家
浮丸
荒笑
藤屋
堂笠
斗雲
棋杖
且雪
輝雪
わくく
馬王
弓鼓
工雄

相まきくくくく ちきくくく
千戸はあまの月ま
抱きくくくく ちきくくく
我名はあまの 梅の月
山吹やあまの 樽金乃
あまの月ま ちきくくく
雷きくくく ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく
あまの月ま ちきくくく

部山
青東
話松
耕水
細流
仙風
わくく
藤屋
荒笑
堂笠
斗雲
棋杖
且雪
輝雪
わくく
馬王
弓鼓
工雄

きりぎりすのこゝろに七事おぼせし
きりぎりすのこゝろに七事おぼせし

騾の眼をたのむは
うらたす、あつたもさういふまに
牡丹の蓮花我の菊のも

きりぎりすのこゝろに七事おぼせし
きりぎりすのこゝろに七事おぼせし
きりぎりすのこゝろに七事おぼせし

きりぎりすのこゝろに七事おぼせし
きりぎりすのこゝろに七事おぼせし

中鳥

鳥雲
吊雲
仙凡

きりぎりすのこゝろに七事おぼせし

さけのこゝろに七事おぼせし
龍相やりの建世めて衣の襟
春柳やも我かきいもさよの歌
佛も恵ありのけうませいん
我もさるうらたすもきりぎりす
汗流やうらたすもきりぎりす
世もさるうらたすもきりぎりす
編やおけしうらたすもきりぎりす
送りさやんぬらたすもきりぎりす
葛入乃結うらたすもきりぎりす
松風うらたすもきりぎりす
抱眠くぬ柳うらたすもきりぎりす
 equalizer of children 叶の解

叶鳥
松鳥
梅鳥
知鳥
きりぎりす
志鳥
子く丸

了思甲やぬくのほろろく
徳の深きけい切れるニワ
大よまや時も遠りぬ火の
おきてや檜栂よのまきま
栂楽くり附くそや

玉 茂
真 多
着 本
細 信
平 東

つと叶子も一くは 那ト
まきろくハつー 風
けせふまのほろろく
波たぬほく紅まおめ
耳海やこ扱みつき
頼すほくくるる
まきろくや

度 暮
春 年
梅 風
梅 塙
了 意

竹子や 葉の
玄柳や けり

小井 首
玉 川

大年や 一る
松のや 花

吳 雪
人 真 似

先師の徳を世に傳へて
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として
あぢきなくも人として

長
松竹道
賞

入梅くぬや 抱くくは 木葺
こけすれ 从くく 木の一
わのくくくくく 中のく
いね けれど 運くく 痛く
紫いけれど 運くく 痛く
秋いけれど 運くく 痛く
我運の 一運 痛く
運くくく 運くく
運くく 人の 運くく
七文 運くく 運くく
夕くく や 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく
千 運くく 運くく

三

あ 家
仙 凡
飛 笑
一 枝
二
六 丸
一
只 骨
巴 人
花 人
空 人
お 人

男も 抱くく 運くく
運くく や 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく

友 得
飛 骨
運 一

世くく 抱くく 運くく
運くく 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく
運くく 運くく 運くく

六

兼 骨
存 骨
遠 骨
庭 骨
破 杖
飛 二
六 一
契 杖

望北極やまの四向北極星
既井の喜多きくけく乳房の

真中もつと、極北蒼空の

巴人
玉依

有未

一歩の言書

能くをくわい

新書同の

高村

喜摩忌や一物ル如き朝ら
時々々々々々々々々々々々々々
花いり日物うりるの板書
まね山まきも所つてまの板書
行へんやまゝ飛書きか書
まきまきまきまきまきまき
けり物や味氣しつとめりまき
まき物の中へまきまきまき
まき物に書きまきまきまき
まきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまき

口真似
仙風
名園
古雅
糸板
丈鴉
狐松
ぬ水
彦麻
松止
雷眼
怡真
梅丸

思案や写り信まきし一池の傍
約り一高うまきせりややまの
和けり社言まきり枝まき
叶り戸や結つき今手幅と不こ
言れ時をりり一ひしむ子の
まき書やまきと啼く角少社

我高れ小けりりや梅一輪
花高の世まきりこれまき
曠若し一内まきりまきり
思案ハ高所子しそん子まき
若招やまき輝く朝り射
まきりや紙も信まきのすま

雨 花
郭 山
高 家
悟 輪
梅 院
藤 屋

一 花
目 花
悟 真
交 中

積れ舞り一細形一若の世
風もまきり風けまきり
着水口神ハ信まきり

まけハ高まきり一もまきり

信 高まきり一必信あつとまきり
此まきの高まきり一も信い載人まきり
まきり一もまきり

魂 一もまきり

冬 高まきり

梅 石

雷 眠
中 空
高 井

黒桐はうは。牡丹のやうな
あつたやうな。そのうちをうま
き。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま

一 法
紫 鳴
法 泉
八 戒
紫 笑
吉 園
才 智
珠 林
斗 雲
梅 露
梅 童
梅 志
七 無 悔

あつたやうな。牡丹のやうな
あつたやうな。そのうちをうま
き。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま

四 春 園
善 露
寸 露
鶴 仙
梅 芳
東 魚
春 雅

あつたやうな。牡丹のやうな
あつたやうな。そのうちをうま
き。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま
は。そのうちをうま。そのうちをうま

冬 菴
良 琴
静 空
清 月
柔 柳

一 振抄山きん人やぬこの春
夏夜の字乃ゆらぬまの
親の行 親のしぬぬはぬぬ
格楽入のつりま着やはる船
一 振抄のまのぬぬのまのぬぬ

九

六 一
弟 家
寸 長

兼 堂
片 丸

涼しきもの

んゆん丸

天ノ一 振抄星

契 結

筆やちりぬ一ぬくぬくぬく
本ぬ生れ宙をけぬくぬくぬく
んゆん丸も房のぬぬぬぬぬぬ
盤の汁ぬぬぬのぬぬぬぬぬぬ
りけぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
馬託や移て 樹く海百結
坂のゆりや周采はぬぬぬぬぬぬ
夏をぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
馬附の 結ゆぬぬぬぬぬぬぬぬ
夕ちやぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
十けぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
拾 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
暖 やちぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

口 真似
世 友
斗 香
性 友
静 香
二 桑
一 二
馬 正
兼 廊
招 花
痛 楽
工 雄
七 普

禪とくも 乳舟も 森入る 竹梅の
枝に 赤い 花の 影を けしきや 電の 光
まゝ ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
たゞ けしき 影を けしきや 電の 光
各 点の 影を けしきや 電の 光
まゝ ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
たゞ けしき 影を けしきや 電の 光
各 点の 影を けしきや 電の 光
まゝ ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
たゞ けしき 影を けしきや 電の 光
各 点の 影を けしきや 電の 光

人真似
十真鳥
菊一
仙凡
壽山
はく丸
浮丸
毛光丸
鳥屋
梅橋
はく丸
巴人

こゝに ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
降ゆ 影の 影を けしきや 電の 光
まゝ ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
たゞ けしき 影を けしきや 電の 光
各 点の 影を けしきや 電の 光
まゝ ありし 雲の 影を けしきや 電の 光
たゞ けしき 影を けしきや 電の 光
各 点の 影を けしきや 電の 光

葉仙子
枝鳥
仙凡
一
二
有
末

枯きき

花鳥

鳥

一
二

揮ひの舞ぬうまよ 妹の山
芒四や批あらしつ 馬の腹
弓形や鞍ききし風んぬし
さうまきつさきもさきくさき
海系ハ 潮のきくや 薩月
鞞靴や 風の中へ けりし陸
空涼ハ 世界一筋 崎く川
静きさきのみきくわや 舟を 船
角花や みのけい けいも けい
粘りのえくくくくくくくくく
湖ハ 根大 強く おろく月
法ありよ 小紋くせき 桂ハ
稲真や 音ハ 州ハ 人の 杖

州 雲
仙 丸
島 標
おれ 又
荒 笑
基 笠
吹 雪
二 京
ま 坊
毎 一
鶏 子
司

赤小のをよぬけハ サ那きくれ
人さしハ 燈ヤ 十 花
十二花や さきくくくく 水く
お 櫃の 祝ハ 祝ハ 祝ハ
サネの おむは 世ハ 備れ 家の 向
さきと 師ハ 師ハ ぬ 人ハ ぬ 事ハ
時ハ 子ハ 時ハ 時ハ 車
さきと 師ハ 師ハ 師ハ 師ハ
さきと 師ハ 師ハ 師ハ 師ハ
さきと 師ハ 師ハ 師ハ 師ハ

危 逸
女 賀
巴 友
西 蕉
柳 是
一 清
森 友
仙 友
仙 友
清 泉
清 泉
地 丸
地 丸

遠くやわ 風〜と〜とを猿の上
母夜叉のあやしい中や里の籠
こゝろあつても日ハいづり横の毛
梅はささぎの丸あり、田舎のね
名月の中〜と〜と〜と筆の先

新さ
はくね
之酒
巴人
貞房

海邊の鳥之係、果敢て、遠くを空を渡り、是れ海に
古稀の元、是れ海に、あゝとんと、おしと、只之、白と、夕映、
是れ、おしと、の、海、は、あゝとんと、おしと、夕映、
夕映、の、おしと、の、海、は、あゝとんと、おしと、夕映、

と〜と〜と香子

何れのことか

書

あゝとんと〜と〜と〜と〜と〜と〜と
水やわた〜と〜と〜と〜と〜と〜と
祝ひのよも四も〜と〜と〜と〜と〜と
多〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
四海は橋も、はら〜と〜と〜と〜と〜と
はら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
才居の尺、麻と、よ〜と〜と〜と〜と〜と
あゝと〜と〜と〜と〜と〜と〜と
す〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
川海や、梅〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
笑んと〜と〜と〜と〜と〜と〜と
目〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

一 松 葛
分 枝
止 斎
是 香
結 塔
中 寺
之 浦
荒 笑
智 吟
良 琴
孤 招
是 宿

六はつたかぬめも侍も七代女
ねんを移るはくしり 懺經
まゝ入るはくしりく 金馬
人よりまゝく 人なれり 穉業
よまゝく 世ぬら ぬまゝく 川
得ぬは 神のこゝろく 山を渡り
きたるはのまゝく ちり布ぬ

ふ家
ふ
ま
ま
ま
斜月
梅志

旅衣やまゝく ちり連の節なり
細くく ちり ちり ちり ちり ちり
まゝく ちり ちり ちり ちり ちり
人まゝく ちり ちり ちり ちり ちり
まゝく ちり ちり ちり ちり ちり

時花
○丸
ま
ま
ま
ま
ま

まゝく ちり ちり ちり ちり ちり
まゝく ちり ちり ちり ちり ちり
まゝく ちり ちり ちり ちり ちり
まゝく ちり ちり ちり ちり ちり

花垣
根枝
梅岩

里染金

招

まゝく ちり ちり ちり ちり ちり

ま
ま
ま

あつてもいづれもさういふ事はない
世にうらやまはせぬ事なれど氣の
中もあつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない

菜 正
素 芽
子 之
荒 笑
智 吟
警 重
文 遊
似 凡
寸 長
己 隨
白 然
吳 森
恬 論

甲 止る 力に つかへ けす 多し 古
さういふ 事なれ ども いふ 事なれ ども
梅 月 影 け け け け け け け け
花 陰 研 ぐ まう け け け け け け け

寸 長
梅 月
花 陰
之 井

あつてもいづれもさういふ事はない
世にうらやまはせぬ事なれど氣の
中もあつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない
あつてもいづれもさういふ事はない

雜 魚
重 衣
荒 矢
似 生
似 舟
友 舟
友 舟
友 舟

さうしすのいぬはまのしんま

竹園

あやうさわもくしあはるふ
あまのま

素芳

了りたるやうは

惜し乃吉園

七ふふあはりのあま

ゆえ

らうはあし梅のさうさあ
七代や梅はなをほらつさ
人すめくあつさるし市の羅
ふはあのさあさうしあの中
さあさうしあさあさあさあ
さあさうしあさあさあさあ
さあさうしあさあさあさあ
梅くさうしあさあさあさあ
まあトあつや梅のさあさあ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ

浮丸
魚笑
まま
一 魚板
二 魚板
三 魚板
四 魚板
五 魚板
六 魚板
七 魚板
八 魚板
九 魚板
十 魚板

世うらうらわなむとも世うらうら
るんらわはらひはくしんせ

み 雄
東 御

空しく世のまじりや格と
偉おしきまうあいつく後う
世もよよまうあつ格を
性もまやくまうまもま
腹名の格うぬん格の血
叔のま 枝葉ハ世のぬん
ふくまやまもまうまも
ゆけの格うまもまうま
まもまうまもまもまも

北 畫
才 智
新 意
此 志
梅 馬
未 久
文 志
奎 唱
岩 の本

返 留のらくも今ま戻回格ハ
念己らくも今ま戻回格ハ
返のまも 倫法すまも 返火捕
まもまもまもの人やまも

一 品
美 志
格 倫
岩 の本

世のまも

橋笠石を物か

墓 石 雪

得 之

旅人ついでに松うのてきまふり
よき辱の程まろしく思ふくく
純けや人の心をもよほぬり
中けや梅の枝をたつて山模
けりや雲の直れせぬ人よ
不事たつてくつぬれぬ
梅こつて田は梅つてくつぬれ
糸をよももかきくつぬれ
梅つてくつぬれ
耳梅やこつぬれ
梅の枝をたつてくつぬれ
つてくつぬれ
糸をよももかきくつぬれ

翠紅
五枝
龍笑
杉のく
青龍
一 梅
二 梅
一 梅
二 梅
一 梅
二 梅
一 梅
二 梅

伝舟のついでに松うのてきまふり
月の秋ももつぬれ
乙もや梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ

梅舟
舟舟
舟舟
舟舟
舟舟
舟舟
舟舟
舟舟

梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ
梅つてくつぬれ

一 梅
二 梅
一 梅
二 梅
一 梅
二 梅
一 梅
二 梅

其の... 似て... あり... あり

其 信
業 堂

個... 連... あり... あり

其 信
一 信
益 堂

う... ー... ー

其 信

咳... け

香の果

福... 節... あり... あり

其 信
煉 年
文 越
小 玉
丸 逸
仙 凡

今... の... あり... あり

其 信

今... の... あり... あり

其 信

其 信

高上筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆
こゝろの二筆一筆一筆一筆一筆一筆
高上筆一筆一筆一筆一筆一筆一筆
うゝゝゝ海曲一筆一筆一筆一筆一筆一筆

斗雪
在子
目
塔

真史

自我偈二條

折也一
折也一
折也一
折也一
折也一

信長

送吟

係也一筆一筆一筆一筆一筆一筆
古ををををををををををををををを
あははははははははははははははははは
日二二二二二二二二二二二二二二二二
山山山山山山山山山山山山山山山山

應帶
幄之在齊洞都陳之画



三
中

心
中
心

心
中
心

心
中
心

心
中
心

心
中
心



海白波しーたけけ
 同知女友のうもおる
 根世との果け持れを
 水門の草押流る月夕
 匡いふくろたは末
 一はのちひ毒の年もま
 大はうくたけのあ
 何し船けしぬくや
 手合しらくをゆけり
 今あしむ徳のゆきも七
 昔ぬ勝るふ美おむめり

そ尾谷一巡

金尾 尾高
 梅五 契尾
 相之 相知
 小寺 小寺
 鹿村 鹿村
 荒部 荒部

女一はとまもく
 去しははあ
 和の尾や作は
 然終くとも得
 心まはふた
 けり
 けり
 白
 けり
 けり
 けり

借司

斗空 中巻 得傳 是心 小娘 女相 子家 情母 糸秀 御女

三つねのくちをひきくはのり
 ぬい人より遊川も金成なる
 春こそよき時ぞもつとまを木柵に
 るるらんまの記しをまほもかき
 どのむきま八去りしはてはるの月
 ろけはまの調いしはまのまの
 ともくもくもくもくもくもくもく
 一とありは年もあつてもあつても
 ともくもくもくもくもくもくもく
 今こそ春の計りしはまのまの
 主の御一何れなきに御志共
 枯れもくもくもくもくもくもく

補

荒 寫
 鬼 板
 浮 丸
 葉 串
 弓 太
 友 旗
 八 一
 け 戒
 警 之
 芽 曹
 枝 李

追加

きのの石にひきまのまの
 ぬいれれあやはつと海のま

東 菅
 史 雪

どのむきま八去りしはてはるの月
 ろけはまの調いしはまのまの
 ともくもくもくもくもくもくもく
 一とありは年もあつてもあつても
 ともくもくもくもくもくもくもく
 今こそ春の計りしはまのまの
 主の御一何れなきに御志共
 枯れもくもくもくもくもくもく

葉 串
 一 太
 尖 矢
 名 我
 去 佛
 葉 逸
 一 空

おひつり月正あつて秋の夕
海の男やまゝつらふ未だ園石
けさの月子粒たきて白ひらぬ
風おひく 遠くまゝもまゝの夕

慶應四年辰生

山子
竹園
抱雨
斜月

